



最近、我々日本人にとって意外な場所が、訪日外国人観光客の人気スポットになっている。これには、彼らが利用する海外の旅行クチコミサイトが大きく貢献している。6年後の東京オリンピックに2000万人もの外国人観光客を招聘するには、海外の旅行クチコミサイトの影響力に注目すべきではないだろうか。

### 訪日外国人旅行者が注目する新しい観光スポット

最近、外国人旅行者が注目する意外なスポットを紹介するのが、日本のマスコミの流行になっている。日本人には当たり前になっている光景が、外国人にとって「信じられない」、「びっくりした」、「クール」な光景として映っている。

たとえば、渋谷のスクランブル交差点、新宿のロボットレストラン、山谷の簡易宿泊所街、新幹線の姫路駅、伏見稲荷の千本鳥居、京都の嵐山モンキーパークいわたやま、梅田スカイビルの空中庭園、沖縄美ら海水族館などなど、人気スポットが増えている。

新幹線の姫路駅のホームは、「のぞみ」が時速 300 km もの最速スピードで通過し、世界でも稀有な体験が出来る場所になっている。

このスピードは、世界最速のジェットコースターの時速 240 km を大きく上回る。外国人が驚嘆するのも無理からぬ場所である。

大阪の梅田スカイビルは、21 年前に開業した高層ビルである。40 階建ての最上部の回遊式の屋外展望台「空中庭園」に外国人観光客が急増し始め、2013 年には 25 万人（前年度の 2.5 倍）もの外国人が押し寄せている。

2008 年 5 月号の英紙タイムズ「世界の建物トップ 20」に、有名な「パルテノン神殿」や「サグラダファミリア」などと一緒選ばれたことが、きっかけになっている。

世界的に有名な英旅行ガイド「ロンリープラネット」でも、「未来の凱旋門」といった紹介がなされ、海外から大きく注目される建造物になっていることも、影響している。

## 外国人旅行者が、日本の街おこしに貢献

外国人旅行者の貢献は、日本人の気が付かなかった新しい観光スポットを教えてくれるだけではない。日本人が関心を持たなくなったり、見限ったりしてきた街や場所の再生や活性化にも、大きく貢献している。

東京の山谷や大阪の釜ヶ崎（あいりん地区）は、かつては日雇い労働者の集まる街であった。最近では様変わりし、身寄りの無い高齢者の多い街になっている。ここは彼らの泊まる安い簡易宿泊所が多い。ここに目をつけたのが海外の若者であった。

2000年代に入り、この安い簡易宿泊所に、海外から若いバックパッカーが集まりはじめ、街は大きく変わり始めている。地元では、最近、彼らのための観光案内所を設けたり、地元行政も、海外旅行者向けの宿泊所への建て替えや建設に資金助成を始めている。

外国人旅行者が、衰退していた日本の街を活性化しているのは、大都市だけではない。地方の都市や街でも注目を集めている。

たとえば、スキーやサイクリングなどで有名な地域である。海外からスポーツ愛好家が集まり、世界的に注目される場所になり始めている。

日本のスキー人口は、1990年代半ばをピークに減り始め、全国のスキー場は低迷してきた。その低迷を引きとめ、日本人のスキーの関心呼び戻したのは、雪質に優れたパウダースノーに注目した外国人スキーヤーであった。

有名なのは、北海道後志地区にある虻田郡のニセコ町と倶知安町地区にあるスキーリゾートのニセコである。このスキー場には、2000年代に入りオーストラリア人が、パウダースキーに注目して急増した。街はオーストラリア人で溢れている。

その後、東南アジアからのスキー客も加わり、町の人口も増えている。亜熱帯の東南アジアの人々にとって、雪で覆われた白いゲレンデで楽しめるスキーは憧れのスポーツになっている。

これに注目した長野県や岩手県などのスキー場でも、彼らの誘致に努め、活性化している。長野県の野沢温泉スキー場や白馬八方尾根スキー場、岩手県の安比高原スキー場や雫石スキー場などには、多くのオーストラリア人や台湾人ほかが集まってきている。

スキー場だけではない。外国人は、日本のサイクリングロードにも注目している。それが、瀬戸内海にかかる「しまなみ海道」である。尾道と今治を結ぶサイクリングコース（70km）である。

この海道は、1999年5月に全面開通し、2008年頃からサイクリング客が増加した。昨年の2013年度には過去最高の18万6000人に達し、世界のサイクリング愛好家の関心が集まっている。

火付け役は、台湾の自転車メーカーであるジャイアント（Giant Manufacturing）の劉金標会長である。彼が2012年5月に来日し、しまなみ海道を走りブログに素晴らしいと宣伝した。

また、米CNNは、「広島のしまなみ海道：世界で最も素晴らしい自転車道の一つ」という見出しで、最近この素晴らしさを報じている（2014年5月19日付け）。

広島県は、この人気にサイクルツーリズムによる地域活性化を目指し、この「しまなみ」

と隣接する「さざなみ」、「とびしま」、「かきしま」の各海道を結んだ「瀬戸内サイクリングロード」（総延長 260 km）の整備を完了（2014 年 5 月）させている。

## 海外の旅行クチコミサイトのインパクト

以上、見てきたように、日本人の気が付かなかった特定場所や旅行案内書にも載ってなかった場所に、多数の外国人が集まって訪問してくるようになり、海外のメディアにも大きく取り上げられるようになった。

それには、旅行者自身が自由に参加できる旅行クチコミサイト、誰もが投稿できる一般動画サイト、各種の SNS による情報交換が、大きく影響しているといつてよい。この傾向は、今後と強まるといってよい。

特に注目すべきは、海外の旅行クチコミサイトの役割である。最近、「トリップアドバイザー」という旅行者向けのクチコミサイトが、日本のマスコミ報道でもよく取り上げられるようになってきている。

それは、日本人が遠く忘れていた歴史遺産や日頃当たり前の風景で気が付かなかった場所に、訪日外国人のクール、素晴らしいと言って訪れるようになり、それがこの世界一のクチコミサイトで広がり、日本の新たな観光名所になっているからである。

「トリップアドバイザー」は、2000 万人以上の会員（2013 年 12 現在）を有する世界一の旅のクチコミサイトで、世界最大のネット旅行予約会社エクスペディア社から 2011 年 12 月に分離独立した企業である。

このサイトには、全世界で月間 2 億人のユニークビジター（重複しない訪問者数）があり（2013 年第 1 四半期）、世界中のネット旅行サイトでのシェアは 11% である。会員登録をすると、クチコミ情報を検索・閲覧できるサービスを提供している。スマートフォンでも利用でき、FaceBook ともつながっている。

日本の観光庁も、世界一の旅行クチコミサイトの力を借りて、世界中の旅行者に日本の魅力をアピールしようとしている。観光庁がすすめる訪日旅行促進事業（ビジットジャパン）に、日本トリップアドバイザーの協力を得ている。

具体的には、日本トリップアドバイザーは電通と協力し、訪日外国人によるクチコミを利用した日本をアピールする「Japan プロモーション」（期間は 2014 年 8 月から 2015 年 2 月）を開始している。

もう一つ、日本でもよく紹介されるようになった海外の旅行ガイドブックに、「ロンリープラネット」（Lonely Planet）がある。このガイドブックは、現在、世界を旅行するバックパッカーのバイブルといつてよい。イギリスのウィーラー夫妻が 1973 年に自費出版した旅行ガイド本が始まりである。

2014 年現在、118 の国と 650 タイトルを数え、英語による旅行ガイドブックのシェアは 25% で、世界一になっているという（出典：ウィキペディア）。現在は 650 を越える国や地域でのガイド本が出版されている。

日本を訪れる観光客は、中国、韓国、台湾、香港ほかの東南アジア勢が 3 / 4 以上になっている。今回紹介しなかったが、これらの国の人々に利用されている旅行のクチコミサイトにも、大きな関心を払うべきであろう。

(TadaakiNEMOTO)